

噴火発生日時	前駆現象	噴火の特徴、被害等	報告者
1931 年 4 月 2 日 19 時半	3 月 20 頃より鳴動, 4 月 2 日午前 7 時, 12 時, 午後 3 時等, 山上で有感地震。午後 4 時 40 分 6 時 40 分には, 山麓にても有感地震。	(噴火地点)新岳北西火口壁(火山弾)向江浜が被弾。(噴煙・火山灰)噴煙高 4~5km。本村・向江浜で降灰。(土石流)4 月 15 日 17 時 10 分頃:3 戸流失, 5 月 11 日 16 時 40 分頃:家屋浸水	中野嶽三(1932) 田中館秀三(1938)
1931 年 5 月 15 日 20 時 25 分		(噴火地点)新岳南西火口壁(噴煙・火山灰)屋久島方面に降灰	中野嶽三(1932) ¹⁾
1931 年 6 月 6 日 17 時 30 分		(噴火地点)新岳火口底(噴煙・火山灰)本村・向江浜で噴石交じりの降灰(土石流)6 月 26 日 19 時 30 分頃	中野嶽三(1932) ¹⁾ 田中館秀三(1938) ²⁾
1933 年 12 月 24 日 4 時 10 分	12 月 22 日夕方, 山頂部で鳴動。23 日夕方から小爆発?	(噴火地点)新岳火口底(火山弾)七釜が被弾、全焼(噴煙・火山灰)噴煙高 600~700m。屋久島方面に降灰(西風)。	本間不二男(1934) ³⁾ 田中館秀三(1938) ²⁾
1933 年 12 月 31 日 20 時 30 分		(噴火地点)新岳火口底(噴煙・火山灰)新岳東斜面に噴石, 屋久島の永田にまで達する。	本間不二男(1934) ³⁾ 田中館秀三(1938) ²⁾
1934 年 1 月 11 日 16 時 14 分		(噴火地点)新岳火口底(噴煙・火山灰)噴煙高千数百 m, 屋久島まで噴石・降灰(土石流) 1935 年 4 月 4 日 18 時半(死者 5, 負傷 15, 物的被害 15,000 円)	本間不二男(1934) ⁴⁾ 田中館秀三(1938) ²⁾
1945 年 11 月 3 日		(噴火地点)新岳山頂東斜面での割れ目噴火(噴煙・火山灰)東側に火山レギ, 屋久島で降灰。	
1966 年 11 月 22 日 11 時 34 分	新岳では 1966 年 10 月頃から白煙量が減少, 11 月にはさらに減少, 爆発 1 週間前は非常に少なくなった。爆発約 10 分前に前田で, また新岳 8 合目西斜面では 2~3 分前に弱い地震。	(噴火地点)新岳火口底(火山弾)火口から北北東 3km の五郷海岸に直径約 1m の噴石(噴煙・火山灰)噴煙高 5km。新岳より北東方に噴石・降灰多量。南方にも降灰。屋久島・種子島でも降灰 噴火/22 日夕方(1 回), 23 日(1 回), 24 日(5 回), 27 日(1 回)	鹿児島地方気象台・屋久島測候所(1967) ⁵⁾
1968 年 12 月 21 日			
1968 年 12 月 29 日			
1969 年 1 月 14 日		(噴煙・火山灰)21 日まで噴煙降灰	
1969 年 2 月 5 日 18 時 50 分	2 月 1 日から地震増加(20~50 回/日)		角田(1970) ⁶⁾

1969 年 3 月 10 日 16 時 50 分	地震活動増加みとめられず		角田(1970) ⁶⁾
1972 年 9 月 2 日		(噴火地点)新岳火口底	
1973 年 11 月 5 日 7 時 15 分		(噴火地点)新岳火口底	角田(1977) ⁷⁾
1973 年 11 月 6 日 13 時 56 分		(噴火地点)新岳火口底	角田(1977) ⁷⁾
1973 年 11 月 7 日 20 時 40 分		(噴火地点)新岳火口底	角田(1977) ⁷⁾
1973 年 11 月 19 日		(噴火地点)新岳火口底 (噴煙・火山灰)噴煙	角田(1977) ⁷⁾
1974 年 6 月 3 日 20 時頃		(噴火地点)新岳火口底 (噴煙・火山灰)噴煙	角田(1977) ⁷⁾
1976 年 4 月 2 日 15 時 40 分		(噴火地点)新岳火口底 (噴煙・火山灰)向江浜・前田で 降灰	角田(1977) ⁷⁾
1980 年 9 月 28 日 5 時 10 分	有感地震なし。鳴動・噴気・ 動植物等の異常現象等につ いても報告なし。	(噴火地点)新岳山頂東斜面 (1945 年と同じ場所)での割れ 目噴火 (噴煙・火山灰)新岳南西山麓 に噴石と降灰, 噴出物量:約 10 万 m ³	京大・東工大・ 鹿児島大 (1981) ⁷⁾
2014 年 8 月 3 日 12 時 24 分	1999 年 7 月以降, 地震活動 が 1-2 年周期で活発化 1 時間前から火口側隆起の 傾斜変動	(噴火地点)新岳	

参 考 文 献

- 1) 中野嶽三(1932):昭和 6 年の口永良部火山の噴火, 火山, 1, 69-72.
- 2) 本間不二男(1934):昭和 8 年 12 月～昭和 9 年 1 月, 口永良部島新岳の火山活動, 地球, 21,
- 3) 本間不二男(1934):口永良部島の火山地質と火山活動, 火山, 2, 20-39.
- 4) 田中館秀三(1935):口永良部島新岳噴火と火口の形態及び向江浜の山津波, 火山, 2, 339-354.
- 5) 鹿児島地方気象台・屋久島測候所(1967):昭和 41 年 11 月 22 日の口永良部島新岳の爆発, 福岡管区気象台要報, 22, 79-98.
- 6) 角田寿喜(1970):口永良部島の火山活動—活動の特徴と 1969 年の地震観測, 鹿児島県の地震・火山活動, 昭和 45 年 3 月, 24-31.
- 7) 角田寿喜(1977):口永良部島における地震観測, 鹿児島県の地震と火山, 第 9 号, 昭和 52 年 3 月, 61-67.
- 8) 京都大学防災研究所・東京工業大学工学部・鹿児島大学理学部(1981):1980 年(9 月 28 日)の口永良部島新岳の噴火(概報), 火山噴火予知連絡会会報, 第 20 号, 1-9.